

# みつくら

令和 5年 8月15日 第392号  
発行 大瀬川活性化会議  
編集 「みつくら」編集委員会  
花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

### 花巻市防災訓練が行われる

7月9日 令和2年以来の花巻市防災訓練が大瀬川振興センターで行われ25名が参加した。この日は午前9時30分にエリアメールの配信を受け、防災無線機の送受信試験を各区防災会・自治公民館・千鳥苑・大瀬川振興センター間で行った。その後、各区自主防担当者らが、大瀬川振興センターに集合し、市の担当職員の指導のもと、指定緊急避難場所開設と運営方法の説明を聞きながら、段ボールベッド3台と屋内テント3張りの実演を行った。この訓練では段ボールベッドも屋内テントも2人いれば簡単に組み立てられることや、更には応急トイレや仕切り用パーティションの設置の仕方などを学び、災害時に大いに役立つと期待される。近年、国内外で多くの災害が頻発しており、この地域もいつ災害が起こるかわからないので定期的な訓練が必要と感じた。

### 今年も避難所が設置される

7月15日10時33分に土砂災害警報が発令され、夕方大瀬川振興センターに避難所が開設された。市の担当職員4名が段ボールベッドや毛布の準備などを行った。今回避難者は2名で翌朝まで避難し段ボールベッドを利用した。昨年のお盆中にも大瀬川振興センターに避難所が開設されている。今回の大雨は九州から山陰を経て、日本海側の石川、山形県などに線状降水帯を発生させながら、15日には秋田県に移動し、秋田駅付近が浸水して新幹線が止まった。

### 7区で新たに崩壊恐れ箇所が追加

花巻市は平成30年7月に7区で範囲区域の地権者を集めて土砂災害警報区域指定の説明会を行っている。その場所は「新山の沢」で葛丸川の通称白壁、「新山の沢2」で菅原教雄さん宅西側の2箇所、土砂災害警報被害対象が11軒となっていた。今回新たに「急傾斜地の崩壊恐れ箇所」が追加され、7区自主防災会を通じて各家に前回の対象場所の上に赤色の枠が描かれ、対象宅の名前の入ったカラーA-4版用紙が配られた。

。追加箇所は2箇所「新山の沢2」の範囲区域が東側の菅原康之さん宅まで広がり、7軒増えた。また、千鳥苑の付近も新たに追加された。これにより高齢者避難警報警戒レベル3が発令された時は、7区自主防災会でも対象宅に避難連絡をすることにした。

### 千鳥苑で合同避難訓練が行われる

7月29日午後1時30分からケアハウス千鳥苑とグループホーム千鳥苑による第1回合同避難訓練が、夜間、大地震発生により館内が停電し、その後1階の厨房から火災が発生したとの想定で実施された。花巻北消防署員2名・高昌商店（報知器起動）2名・地域防災協力員（菅原康栄・板垣公・菅原茂）3名が立会しての訓練となった。暑い中、各苑の職員が大きな声で手際よく避難誘導し、避難場所に20分で全員（25名）の誘導が完了した。消防署から「素早く誘導できたのでよかった」と講評があった。その後、消火訓練・発電機使用訓練・AED訓練が行われた。

### 子供育成会が防災航空隊を見学

大瀬川地区子供育成会（辻村智会長）は7月23日、幼年消防クラブの体験研修として花巻空港内の岩手県防災航空隊を子供18名と父母13名が訪れ、防災ヘリコプター「ひめかみ」や化学消防車の放水訓練を見学した。防災ヘリコプター「ひめかみ」を実際に間近で見た見学者たちは、その大きさに驚くとともに、操縦室の複雑な計器類に興味津々の様子だった。「ひめかみ」は毎週葛丸湖で訓練をしており飛行する姿は目にしているが、最大17名が乗れるその機体の迫力は、有事の際の心強さを印象づけた。この日は多くの団体見学あった為、緊急時に備え秋田の防災ヘリコプター「なまはげ」が待機していたが、実際岩手山で遭難者救助の要請が入り緊急出動する場面にも遭遇した。

### 親子環境学習会を行う。

7月23日、葛丸の農村環境を守る会（板垣幸夫会長）主催の親子環境学習会が大瀬川・稲豊地区の児童と幼児そして親を含めた総勢35名と役員20名が参加して行われた。連日の雨によりイワナの放流場所を変更し、元柳原魚店脇の北寺上堰水路に放流。その後大瀬川構造改善センターの講堂に移り、県環境アドバイザーの花澤淳さんによる「山と川の生き物」をテーマとした環境講話を聴いて、葛丸溪流に生息する魚や虫たちを大切に守り育てる大切さを学んだ。

### くずまる健康クラブが取材される

7区の自治公民館で毎週木曜日の10時から元気でまっせ体操をしているくずまる健康クラブ（菅原敬子、世話人）を花巻市の広報誌担当者が取材に来た。このクラブのサロン活動の特徴は、特に役員などは決めずに協力できる人が公民館の鍵を開

けてテレビとDVDプレーヤーを設置して体操をする。年齢層も広く75歳から92歳までの方々が参加しており、公民館から自宅が遠い人は、近くの人が車で迎えに行き乗せてきたりしている。筆者が取材に行った時も車の数に比べて参加者が多くて驚いた。

体操が終わるとお茶とお菓子で暫くお喋りタイムとなるのだが、耳の遠い人には話しの内容を要約筆記で教える。するとまた笑いが起きて2度笑いとなる。これからもこのようなサロンの場を大切にしたいものだ。

### いきいき講座開催一たんぼの会

たんぼの会（熊谷幸子会長）では、7月19日、9区自治公民館で、花巻市長寿福祉課の伊藤さんを招き「こころ健康について、イキイキと過ごすために」と題した講座を開催し、9名が参加した。伊藤さんからは、今年は熱中症に気をつけながらも「食事・睡眠・休養・適度な運動に心がけると共に、日頃から人とのつながりを持つことが大切」とお話があり、特に「こころの健康」の大事さを教えられた。その後は、椅子に座っての「元気でまっせ体操」で身体を動かし、今回は11月の開催を予定して解散した。

### 頼りになる包括支援センター —大瀬川福祉のつどい—

地域福祉推進委員会（菅原房子委員長）は、7月29日「大瀬川福祉のつどい」を振興センターで開催し、19名が参加した。講師には石鳥谷地域包括支援センターの保健師、内藤恵介さんを迎え、花巻市長寿福祉課が発行している【みんなのあんしん介護保険】の利用の手引きを活用して、介護認定、施設利用について、介護保険を利用した福祉用具のレンタルなど、分かり易く説明して頂いた。20分の質問時間も設け、内藤さんの経験を織り交ぜた話を聞きながら有意義な1時間30分だった。「65歳以上になって生活上で困った事ができたらまずは地域包括支援センターに相談してほしい」と強調していた。今年は異常な暑さなので特に高齢者の熱中症予防と対策、疑問のある場合の対処方法の話もあった。

### 中谷地家の庭に大きな熊が出没

7月14日午後2時半頃に中谷地家の庭を大きな熊が横切った。7月8日の朝には同じ中谷地家の東道路に泥の足跡が、7月20日には同じ中谷地にある菅原教雄さんの水田を熊が横切った跡と、同日に再び中谷地家の休耕田を横切った足跡があり、草がなぎ倒されていた。このように12地割に頻繁に熊が表れたのは記憶にないと板垣美智子さんは話している。熊を目撃した、あるいは形跡を発見した場合には警察、または花巻市役所に通報を。直ちに広報車で注意を呼びかけるといふ。

# みつくら

令和 5年 8月15日 第392号  
 発行 大瀬川活性化会議  
 編集 「みつくら」編集委員会  
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

### 大瀬川チーム優勝!!

7月30日にふれあい運動公園で、女性1名以上の参加・出場選手の合計年齢が350歳以上・盗塁なし等のルールのもと、石鳥谷町体育協会主催の第29回石鳥谷ソフトボール大会が開催(3チーム参加)された。初戦は中組と対戦し4対1で勝利。2戦目は上好地と対戦し、最終回に初参加の佐藤伸幸さんのサヨナラ打で同じく初参加の佐藤由幸さんがホームを踏み4対3で勝ち、9年ぶり2回目の優勝となった。

表彰式では、活躍した由幸さんと伸幸さんが表彰状と優勝カップを受け取った。猛暑の中での接戦試合、皆さんお疲れ様でした。

参加者(見学者含む/敬称略)  
 菅原幸福(監督)、熊谷俊哉・裕美子、菅原邦典、佐藤 学・由幸・伸幸、菅原 茂・真吾、板垣淑子、熊谷利津子、藤原 誠、熊谷信人、川村直人

### 農業博物館に大瀬川の花菖蒲を展示

先に、大瀬川自生花菖蒲園で「野点の会」を行ったが、その際に県立農業科学博物館の古川勉さんを「県内の自生花菖蒲」を演題として講師に予定していたところ、あいにく都合で実現しなかった。しかし、翌日の7月3日に古川さんが大瀬川自生花菖蒲園を訪れ、保全活動をしている葛丸の農村環境を守る会が対応した。その際古川さんから「現在NHKで放映している『らんまん』が9月29日に終了するのに伴い、7月23日から9月下旬まで『牧野富太郎書籍展』にこの自生花菖蒲を紹介したい」とお話があった。

数日後、古川さんは再度花菖蒲園を訪れ、写真を撮ると共に花菖蒲1株を丁寧に掘り起こして博物館に持ち帰った。博物館では、その花菖蒲の根を綺麗に洗い、そのまま花から茎、葉、根までを新聞紙を使って標本を作ったという。

後日、「7月23日から9月末まで牧野富太郎書籍展を当館で展示します。その時に大瀬川自生花菖蒲も一緒に紹介しますのでお出で下さい」と古川さんから案内があり、初日に二人で訪れた。

特別企画展の正面には「大瀬川自生花菖蒲」と説明された花菖蒲園の大きな写真がパネルに収められていた。その写真は立体感にあふれたもので、地元の一人として誇らしく思った。さらにその写真の下には、花菖蒲1株全体の標本が展示されていて、この1株も、花から葉まで色褪せ(いろあせ)しない、自然な姿そのものであった。大瀬川の植物が大瀬川以外で披露されたのは今回が初めてではないだろうか。

### 4年ぶりの「さなぶり・年祝いの会」

8区1班(板垣光善行政班長)では6月17日に紫波グリーンホテルで「さなぶり・年祝いの会」が開かれ19人(来賓含む)が参加した。コロナ禍のために中止していたため4年ぶりであった。

当日は来賓の板垣博文第8区行政区長が「区長になってから2年目ですが、初めてご招待をいただきました。1班の年祝いの方(6人)には、お身体に気をつけられ、ますますのご活躍を期待しております」と祝辞を述べた。

8区1班の戸数は18戸だが参加者が多く、久しぶりに酌み交わした酒の味と歓談のひとつときは格別であったと板垣班長は話していた。

### 公葬地周辺の清掃を実施

お盆の墓参りを前に大瀬川公葬地管理運営委員会(板垣弘清委員長)では、8月1日の朝6時から役員10名が公葬地駐車場の清掃や周辺の草刈りを実施した。今年は、周辺に熊の出没が多いので、墓参りの時には供物は持ち帰ることを徹底してほしいと申し合わせがあった。

### やまなし讃歌を全員で熱唱

去る8月6日、石鳥谷賢治の会主催の第12回賢治やまなし祭は、連日の猛暑のため会場を当初のやまなし園から大瀬川振興センターに移し、35名が集って行われた。

今年、残念ながら開花時期に霜にあたって実がつかなかった「やまなし」も展示された。

今回の童話「やまなし」は、6年生の辻村大雅さん(久助家)と菅原 仁さん(治郎助ト家)が朗読した。

続いて岩手大学准教授の田中成行氏が大正12年4月8日付けの岩手毎日新聞に掲載された「童話やまなし」の記事を題材に講話した。その記事によると大正時代の飢饉による食料不足対策として庭先に「やまなし」を植えていたとあった。そのことから会場からは、もしかしたら、薬師堂川の傍らにある「やまなし」の実が落ち、それを好んで食べていた沢蟹を賢治先生が観察して童話が生まれたのではないかと発想した声もあがった。

最後は、全員で「やまなし讃歌」を熱唱して閉会した。

### 好友会、久々の生ビールで交流会

9区好友会(藤原美輝会長)では8月5日に4年ぶりの「焼き肉・生ビール会」を開催した。現在の会員は29名だが今回の参加者は12名で久しぶりの交流会となった。

この会は、9区の若者の交流の場として、近年は夏の焼き肉と冬の忘年会をメインに活動し親睦を深めてきた。

また、夏には8区清流会の盆踊りへの協力も行い交流していたが、ここ数年のコロナ禍でほとんど集まる機会を失っていた。

藤原会長からは「久々の総会で、夏の焼き肉・生ビール会をやろうとの声が出て嬉しかったです。次の忘年会にはもっと参加者が増えることを期待しています」と挨拶があった。

9区公民館広場には、久々に楽しそうなワゲンタジの声が夜遅くまで聞こえていた。

### 暑さを避けて夕方に慰霊碑を清掃

8月6日、大瀬川戦没者慰霊祭実行委員会(藤原利博委員長)は毎年恒例の慰霊碑の清掃を役員5名が出て行なった。例年午後3時頃から行ってきたが、この猛暑で夕方に時間を繰り下げた。高圧洗浄機2台を使用して、慰霊碑や土台に着いた汚れを700リットルの水を吹き付けて丁寧に清掃をした。作業中に土台の南側の石の枠に隙間があることに気が付き調べた。少しの隙間に冬季間に凍結して開いたものと思われる。建立から40年以上になるので出来れば今年度の予算で直したいと話合った。また委員から意見が出ていた洗浄機を提供している方へも僅かであるが謝礼を出すことにした。

お盆前とあってお墓掃除の方が6時近くまで来ていた。

### 7月号の訂正

7月15日号の地区民運動会の開催日が7月11日は6月11日の間違いでした。

### 市民バレーボール大会で4連覇

7月30日、市民バレーボール大会が石鳥谷体育館で開催され、石鳥谷チームが4連覇した。

この大会には我が大瀬川から、菅原崇将さん、板垣雄一さん、板垣春介さん、板垣圭介さん、板垣幸規さん、板垣伸吾さんの6名が出場し活躍した。

### 朝から暑い陽に照らされながらの環境整備

地区民運を前にした6月の第1回に続き、大瀬川振興センターと運動公園の第2回環境整備が8月5日に8区の担当で37名が参加して草刈りや草取りを行った。

9区が担当だった前は前日の雨で大変に草が重かった。今回は7月19日以降殆ど雨が降らず、草丈も低く草刈り作業は楽だった参加者は少なめだった。早朝6時から1時間作業を行った。

この処の猛暑続きでこの日も朝から日差しが強く、少し動いても直ぐに汗が出た。

作業終了後、「朝からこれでは今日も暑い日になるな!」と嘆きながら、葛丸の農村環境を守る会からのお茶をもらって帰途に就いた。